



岡田幹事長の県内視察に同行 (4/2)



酒沼の堤防損壊現場を小林茨城町長と視察 (4/3)



被災企業金融支援緊急対策会議で挨拶。関東財務局、日本銀行、茨城県銀行協会、商工会議所代表などが出席 (4/6)



日本医師会で福島原発問題について講演 (4/8)



参議院財政金融委員会で塩釜漁港など被災地を視察 (5/26)



山口笠間市長・長谷川常総市長と鈴木総務副大臣へ要望 (6/3)

## 「がんばろう日本。」 ~みんなの元気を被災地へ送ろう~



バーナンキ米国FRB議長と (5/3)



石岡市で清掃ボランティア (5/15)



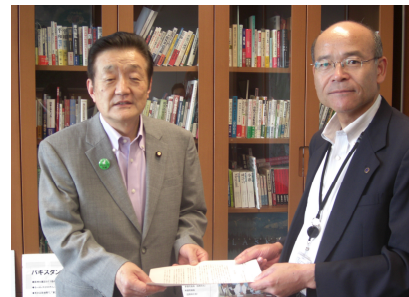
宅建協会水戸支部で講演 (5/16)



茨城県ゆうあいスポーツ大会 (5/22)



(左から)大河原元駐米大使、川村日立製作所会長と日米シン



電機連合有野委員長から要望書

### ふじた幸久議員プロフィール

1950年 日立市生まれ。  
日立市二葉幼稚園・会瀬小・茨城大学附属中・水戸一高・慶応大学卒。  
難民を助ける会と国際MRAなどで48ヶ国を訪問。世界各地でボランティア活動。  
1996年～衆議院議員当選2回(東京比例区・東京12区)。対人地雷禁止条約、不登校生への通学定期支給、天下り追及などに取り組む。  
2007年 参議院議員初当選(茨城選挙区)  
聖学院大学非常勤講師、参議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会委員長、民主党ネクスト防衛副大臣・国際局長など歴任。  
イラク日本人質事件やスマトラ沖津波・ハイチ大地震では、現地に飛び支援活動に取り組む。

### 藤田幸久茨城事務所

〒310-0852 水戸市笠原町600-41-2F  
TEL029-297-8222 FAX029-297-8221

### 国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館914号室



2011年6月号外  
 民主党プレス民主編集部  
 東京都千代田区永田町1-11-1  
 電話 03-3595-9988(代表)

【連絡先】【民主党茨城県参議院選挙区第3総支部】  
 〒310-0852  
 茨城県水戸市笠原町600-41 2F  
 電話 / 029-297-8222 FAX / 029-297-8221  
 E-mail info@y-fujita.com http://www.y-fujita.com



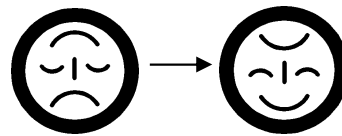
参議院議員  
 参議院財政金融委員長

ゆき ひさ

ふじた幸久

特集号

泣く政治から 笑う政治へ



## 大震災復興特別委で4大臣に質問

6月15日の参議院東日本大震災復興特別委員会で、枝野官房長官や大畠国土交通大臣・海江田経済産業大臣・高木文部科学大臣・松本防災担当大臣ら閣僚に対して質問を行いました。

11日に飯館村での活動に同行した福島原発周辺の放射能除染活動と避難住民の復帰対策についての他、原子力開発機構の活用、IAEAの過去の日本政府に対する勧告、メルトダウン想定分析、港湾・市庁舎・地方鉄道に対する災害復旧支援、液状化問題について取り上げました。

特に茨城県に関連しては、港湾の復旧とひたちなか海浜鉄道や鹿島臨海鉄道などの地方鉄道の復旧に関しての国からの補助を要請し、大畠国土交通大臣から、前向きな答弁を頂く事が出来ました。また、笠間市や常総市などから要望の出ている市役所庁舎の建て替えに対する支援も要請しました。

今後も、被災された皆さんや地域を支援するために全力を挙げ

参議院特別委員会で質問(6/15)



## 福島県飯館村の除染活動、Jビレッジを視察

6月11日に福島県飯館村での放射能の除染活動と福島原発の作業員の中継所となっているJビレッジの視察を行いました。

飯館村には、前原子力委員会委員長代理の田中俊一さんと原子力開発機構のボランティアの皆さんに同行しました。田中さんは1999年の東海村のJCO事故の収束を指揮した人で、福島原発事故後の3月31日には、原子力安全委員会の歴代委員長を含む原発推進派学者など15人と共に「原子力の平和利用を先頭だてて進めてきた者として、今回の事故を極めて遺憾に思うと同時に国民に深く陳謝する」と謝罪した上で、政府や東京電力に対する抜本的な提案を行いました。これまでに数回飯館村に入り、花壇、草地、屋根、杉の枝、畑などの除染活動を行ってきました。ポリイオン溶液を散布してセシウムの飛散を防止してから土や枯葉などを除去します。こうして出た廃棄物を袋に入れてシートで覆います。今後は福島県などとも連携して、原子力開発機構の様々な技術と組織力を生かして、福島県全体の除染活動を計画しています。

Jビレッジでは、自衛隊や東京電力などを中心に福島原発の作業員の皆さんや車両、ヘリコプターなどの除染活動や後方支援活動を行っていました。毎日千人以上の人々がここを通過するとのこと。マスクや防護服、線量

様々な服を着た作業員が慌しく

